

(第3種郵便物認可)

一栄の 異見私見



いる。且氏に言わせれば「誰に頼んだわけでもないのに、皆が集まってきた勝手に農作業して帰っていく」とい

ことで「政治家とマスコミが大嫌い」とい

うだけにPRは一切し

ないが、人が人を呼

び、いつのまにか老人

たちが都合のいい時に

集まる居場所となり、

連携しながら稲作や野

菜を作ることによっ

て、耕作放棄の発生を

阻止するのに大きな役

割を果たしている。ま

た孫たちの世代に稲作

の体験をさせたいとい

うことで、大勢の若

男女が参加しての田

植え祭りと収穫祭を開

催するだけでなく、筆

書が主宰するいなか

体験教室等の個別の二

つにも場を提供してく

れている。

田んぼの脇には本造

りの手作りされた休憩

所を兼ねた小屋があり、

「洗心道場」と墨書さ

れた板木がかかっている。

小屋には囲炉裏が

切られており、天井か

ら大きな鉄瓶がぶら

がる。且氏をはじめと

り

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

と農作業が一段落するところに集まって囲炉裏に薪をくべてお湯を沸かしお茶を飲みながら談笑する。こうした中で且氏は特にまとまった形で話をすることはないが、そこで行われるやりとりの中に、ハッとさせられる言葉、心打たれる言葉が続く。

今回もお茶をすすりながらいろいろのことを語ってくれた。使われ生きるだけ、田んぼも畑も自分を使ってくれる「命も借り物。毎日がお返し。お返しをしてあの世に行くだけ」と生きる姿勢を論じてくれることも

に「お天道様が一番の神様。すべてを作ってくれる。稲も草も何もかも作って、錢をくれども言わない」「おかげさまが出てこない人間は幸せになれない」と語る。農業改革、農協改革に象徴される所得の増大がすべてとする風潮に対して

は「もともとここで人間が苦しんでいる」「いらん いらんが人を幸せにする」と皮肉るとともに「おれはお金がないから、みんなが助けてくれる」とも語る。

まさに且氏は百姓の生き方の真髄を語っているように思う。入り口には「基本を尊ぶ」と刻まれた石碑が建つ。新しい年は「基本を尊ぶ」という原点に立ち返り、百姓の生き方が再評価され、お天道様の恵みに感謝していく方向への転換点となることを期待したい。(農的学会サイエンス研究所代表)

お天道様の偉大な恵み

12月上旬、熱海での講演があったが、朝一番からの出番につき熱海に前泊した。宿泊したホテルの浴場からは海が一望できるとい

うことで、6時前から露天での朝風呂につか

った。久しぶりの好天気

で、海は風いで静か

か。また暗い中、幾艘

かの漁船の灯りが見え

るだけであったが、次第

に明るさを増し海水

面がこれを映して、赤

・黄・青の微妙な縞縞

様を織り成しながら変

化する。そして黄金色

に輝く朝日が水平線か

ら昇るまでをじっくり

と堪能した。太陽が生命

の根源であることをあら

たためて体感させられた

ような気分でもあった。

話は一転するが、年末

、筆書が主宰している

山梨市牧丘町の子

どものいなか体験教室

で、毎年、田植えと稲

刈りでお世話になって

いる且氏にご挨拶のため

おじゃましました。

甲府盆地の東端にあ

る甲州市の塩山から大

菩薩峠を超えて東京ま

で青梅街道が抜ける

が、大菩薩峠の上り口

近くの青梅街道沿いに

ある傾斜地の一部が棚

田になっており、そこ

を且氏を中心とするお

年寄りたちが管理して